

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200171		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	ハートフルホーム八幡		
所在地	静岡県静岡市駿河区有東2丁目12-10		
自己評価作成日	令和 4年 12月 12日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://akutagawa-grouphome.com/facilities/nearby/home-vahata/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 5年 2月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍以前は地域の有東団地の活動に積極的に参加していました。また、施設での活動を有東団地の公民館をお借りして行うなど地域と密接に関われるような活動に取り組んでいました。コロナ禍の現在はzoomを活用しての面会や地域の保育園との交流に取り組んでいます。その他に施設での活動をホームページサイトに掲載しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設する小規模多機能事業所と共に、地域住民との交流が活発であった。SNSを活用した保育園や家族との交流や認知症カフェの開催など、感染状況をみながら工夫した活動を続けていて、コロナ後を見据えた地域との関係継続を図っている。管理者と職員は、個々の目標を掲げて全体会議やチーム会議で情報を共有し、併設事業所と共に法人理念の実践に繋げている。運営推進会議は、2月に1回、オンラインにより開催し、行政担当者、近隣団地の会長や地区の自治会長、民生委員、家族からの意見を聴き取り、事業所運営に活かしている。「生活リハビリ」を重視し、管理者・職員、ケアマネジャー、理学療法士・福祉用具担当者、看護師等が連携して、各々の職域を活かした介護計画を作成し、利用者の能力に合わせた暮らしを支援している。感染症対策として、CO2測定器の設置や定期的な換気・消毒により、安全で快適な空間作りを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を管理者、職員一同共有して地域に根差したサービス提供を心掛けている。 しかし、コロナ禍により地域との関りが薄れてしまっている。	管理者・職員は、法人の経営理念を理解し、理念の達成に向け、個々の目標を掲げて取り組んでいる。毎月行う全体会議やチーム会議にて情報を共有し、併設事業所と共に理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により直接的に地域と関わることはできていないが、zoomを活用してリモートで地域の保育園と交流したり、家族との面会を行っています。	コロナ禍により地域との交流制限がある中でも、SNSを駆使して、地域の保育園や家族との交流を続けている。コロナ感染状況をみながら、認知症カフェの開催を続けて、地域との関係継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域と関わり貢献することが難しくなっている。包括支援センター主催の認知症徘徊模擬訓練に参加予定だったが、コロナにより中止となった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議の開催ができておらず、書面開催としている。書面を地域の方にお渡しする際に報告と共に地域の実情について情報交換をしている。	運営推進会議は、2月に1回、併設事業所と共に、オンラインにより開催している。写真入りの資料を配布して現状報告をするとともに、近隣団地の会長や地区の自治会長、民生委員、家族からの意見を聴き取り、事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催後は必ず議事録を市役所に提出し報告している。	オンライン開催の運営推進会議や認知症カフェ開催にあたり、地域包括支援センター職員と情報交換をしている。市担当者へは、必ず議事録を持参し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束0宣言を掲げており、身体拘束の廃止に向けて日々議論している。玄関の施錠は防犯上の観点から夜間は施錠するが、日中は開放している。	法人は、指針・マニュアルを整備し、新入職員研修・年2回のスキル研修・ジョブドレー(動画)研修の仕組みを整えている。管理者・職員は、身体拘束適正化委員会や法人研修により身体拘束に関する理解を深め、身体拘束を行わないケアを実践している。	

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のために、虐待についての研修をチーム会議にて行っている。その他には動画による研修を全職員閲覧している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員、動画による研修を行っており、必要に応じて活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明者が十分に理解した上で締結、解約をしている。また、お客様やご家族様から常時、質問等を受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様やご家族様のご意見、要望はすぐにサービスに反映できるように心掛けている。意見、ご要望は運営推進会議にて発信している。	法人アンケートや運営推進会議で提示された意見は、職員間で共有するとともに、事業所での対応を報告している。管理者は、感染状況をみながら、オンライン面会等を継続するとともに、こまめな電話連絡を心掛け、都度家族からの意見・要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、チーム会議を行っている。チーム会議にて様々な意見を聞き、サービス運営に反映している。	毎月のチーム会議や毎日の申し送りにて、情報を共有し、意見交換を図っている。年2回、エリアマネージャーとの個人面談にて、職員と意見交換を図るとともに、管理者は、都度職員の様子を観て、意見を聴き取る環境を整えている。	事業所のヒヤリハット・事故報告は、運営に関わる貴重な意見であり、日々申し送りや定例会議により報告されていることと推察されますが、運営推進会議議事録に記載がありません。事例がない場合でも、議事録に記載されるよう、議事録の検討を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、エリアマネージャーによる全職員の面談を行い意見、現状を聴取している。その他にも管理者が様子を見て意見を聴取して環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の2か月に1回、介護技術について業務時間内に研修をおこなっている。その他にいつでもできる研修として動画による研修も行っている。		

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では職員同士が交流できる取り組みを行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にケアマネージャーと管理者が面談を行い、安心して暮らしていけるようにサービス計画に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にケアマネージャーと管理者が面談を行い、安心して暮らしていけるようにサービス計画に反映し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にご家族様、ご本人様それぞれと面談を行い、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はお客様目線にて考えて関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係性を大切に支援を計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の関係のあるものを会話に織り交ぜながら支援している。	「やはたやま通信」に写真を掲載し、事業所での様子を家族に伝えたり、こまめな電話連絡を心掛け、関係継続を支援している。感染状況や地域の実情に配慮しながら、併設する事業所利用者との交流や訪問理美容を継続して行っている。	

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が関わりを持てるように管理者をはじめ職員一同意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもお困りごと等に相談を受け付けられるようにお声がけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様のニーズを管理者やケアマネジャーをはじめとした職員一同把握し検討している。	管理者・ケアマネジャーは、事前面談や利用者基本情報を基に、利用者・家族の意向を確認し、職員と情報を共有している。体験入居の機会を設け、事前情報と利用者・家族の意向を再確認しながら、意向に沿った支援の実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等はサービス開始前にご家族とご本人様から聴取している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チーム会議にてお客様の現状について情報共有をして現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアについてご家族様や本人、職員や理学療法士、福祉用具の職員と連携して話し合い計画作成に反映している。	管理者・職員は、申し送りノート・業務日誌、タブレットでの支援記録にて情報共有を図りながら、チーム会議で行うカンファレンスやモニタリングに繋げている。ケアマネジャーは、理学療法士・福祉用具職員と連携して、生活リハビリを取り入れた介護計画の作成に注力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録を電子媒体にて記録し職員同士で共有し計画の見直しに活かしている。		

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族様のニーズに応じたサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様1人1人について把握して支援できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携して、お客様の状況に合わせて適切な医療を展開できるように支援している。	月2回協力医の往診と週1回看護師の訪問により、健康状態を把握している。協力医は夜間も対応できる。受診情報は、申し送りノートや訪問看護記録で共有している。眼科・耳鼻科など他科受診は、家族の協力を得ながら、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護職員に情報提供ができるように申し送りノートを活用して相談ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院の相談員と密に連絡を取り、退院後の支援を行いやすくしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の当施設の指針について、契約時に説明させて頂いている。	入居時に、重度化した際の事業所での方針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。緊急時には、再度協力医から説明し、家族の要望に合わせた対応をしている。職員は、定期的に法人の研修を受け、指針・マニュアルに沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お客様の急変時に備えて急変マニュアルを作成してある。		

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。 コロナ禍以前は防災訓練に地域の方をお呼びしていた。	避難訓練は、併設事業所と共に年2回実施している。想定を変えて、垂直避難・水平避難など状況に応じた対応を訓練している。発電機を備え、備蓄品は3日分を目途に管理している。コロナ後を見据えて、以前のような地域住民との連携した訓練を検討していく。	計画に基づく訓練が実施されているが、課題が検証されずに、次回訓練が計画されています。課題を継続した訓練計画の実践を期待します。令和5年度末までに災害時業務継続計画(BCP)策定が必要となることから、地域住民との関わりを含めた計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉かけや対応をしている。	運営推進会議議事録や「やはたやま通信」等への写真掲載については、入居時に同意を得ている。接遇や声掛けについて、法人は各種の研修機会を設け、利用者の人格やプライバシーに配慮した対応を心掛けている。管理者・職員は目標を立て、互いに注意する環境を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が意思決定できるような言葉かけで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様1人1人のご要望を最大限優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様が着たい衣服を選択できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の残存能力を活かして準備や片付けを職員と行っている。	業者から配達された食材を、利用者の状態・好みに合わせて、職員が工夫して調理している。生活リハビリを重視して、利用者の能力を活かした作業ができるように支援している。職員は、月2回手作りおやつ会開催など、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は提携先の食事業者と連携して栄養バランスを考えたメニューを提供している。1日の水分量を記録しバランスよく摂取できるように努めている。		

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の残存能力を活かした口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンを把握して、夜間おむつ利用者でも、日中はトイレ利用を支援している。職員は、申し送り等で情報を共有しながら、プライバシーに配慮した声掛けや安全に留意したトイレ誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お客様1人1人に合わせて下剤の調節や飲食物の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、お客様1人1人の希望のタイミングで入浴できるように支援している。	週3回の入浴を基本として、利用者の状態や希望に合わせて、入浴時間を工夫して対応している。入浴剤を利用するなど、気持ちよく、リラックスした入浴ができるよう、環境整備を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時に状況に合わせて休息や睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様1人1人の内服薬について職員が理解して内服後の状態確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味趣向を理解した上でレク等のサービス提供を行っている。		

静岡県(ハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の希望に沿えるように外出支援を行っている。コロナ禍によりご家族様や地域の人々と協力して支援することはできていない。	コロナ禍による制限はあるが、感染症対策を取りながら、事業所周辺での散歩を継続している。利用者個々の状態や希望に合わせて、事業所内の階段・廊下での運動(生活リハビリ)を取り入れ、コロナ後を見据えた外出に備えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設内への持ち込みをお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍により対面での面会ができないため、電話やテレビ電話、手紙等で交流が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた空間づくりに努めている。	居間・居室の清掃や、季節ごとの飾りの制作を利用者と共に行い、季節感のある清潔な環境作りを心掛けている。感染症対策として、CO2濃度測定器の設置や定期的な換気、1日3回の消毒等により、安全で快適な空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様1人1人が安心してお過ごし頂けるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様にはご本人様を使い慣れているものを持ってきて頂く等の支援をしている。	洗面台とクローゼットが備えられた居室には、馴染みの家具を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。家族と連携しながら衣替え等を行い、定期的に生活環境を整えている。利用者の状態や動線に配慮した配置に工夫をして、利用者の能力に合わせた、安心・安全な居室作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送ることが出来るように一人一人の残存能力を活かせるように工夫している。		